

岡部株式会社千葉工場見学会の報告

去る10月27日ベースパック柱脚工法の製造メーカーである岡部株式会社の構造実験センター・千葉工場の見学会を行いました。ご多忙の中、19名の参加ありがとうございました。



千葉工場は野田市にあり、全国で利用されているベースパックはこの千葉工場と京都工場の2箇所生産されているそうです。

われわれを乗せたバスは、千葉・船橋・流山それぞれに集まっていた人々を乗せて千葉工場に着きました。会議室で概要説明を伺った後、3班に別れて見学しました。

構造実験棟では、試験室の方から、グラウト材の施工方法と試験体と実験結果についてな説明を受けました。確実な施工は、人間工学的な観点も必要とのことでした。また、試験体は柱

脚から柱梁仕口・スリーブ補強等、多岐に渡っていました。メーカーにとって実験という裏づけが大事だと思いました。

工場棟では、ベースパックの生産ラインに沿ってベースプレートの板取・アンカーボルトの製作工程等を見学そして丁寧な説明を受けました。特に転造ねじについて皆さんの関心が集まりました。また、随所に廃棄物を減らす工夫が見られました。

会議室に戻って質疑応答を行い、転造ねじについて説明を受けました。

普段、何気なく設計図書に書き込んでいる認定工法も、性能確認・品質確保のためには、よく整理整頓された工場と関係者の真摯な努力と研究があると思いました。

見学会の後は、今年もビヤガーデンにて会員間の親睦を深めました。

今回ご協力いただいた岡部株式会社の平川さん菅野さん始め関係者の皆様、準備と親切な説明、大変ありがとうございました。

会員委員会では、昨年の大同コンクリート工業株式会社茨城工場でのコンクリート既成杭の製造工場の見学、今年の岡部株式会社の柱脚工法の実験センター・工場の見学に続き、来年も見学会・勉強会を企画したいと考えています。皆さんのご意見ご希望をお寄せください。もちろん懇親会も同時開催です。

会員委員会、齋藤（利）記

判定会のルール作りをウォッチングする

— 構造計算適合性判定の説明会に参加して —
免震システムサービス 富島誠司

12月15日に県の責任者による説明会があった。新しい確認審査や判定会に関するものであり、3月に講習会6月実施との工程の説明もあった。その後参加者（約70名）との間での質疑回答が行われた。

質疑では一日の判定件数が多いか、設計者と判定員で意見が食い違った場合はどうするか、判定-確認の流れに時間が掛かりすぎないか、等であり参加者同士にも意見の違ひも出たりして関心の深さを感じた。回答では具体化が遅れているとの釈明もあった。現段階で目に見えるのは判定機関の組織のイメージであり、「何をどのよう

に審査するか」の基本が一番難しい問題で立場により意見が異なることを印象づける結果となった。

しかし我々が認識しておく必要があるのは、新しい判定制度はJSCAがピアチェックとして提案して生まれたいきさつがある。ここでは構造設計者は職能からは説明役であるが、今回の制度は判定する立場に廻る場合があり関連が大変深くなる。

国及び県は「審査指針」作りの最中であるが事件の後遺症から決め事が現実から遊離したり過重になる虞もある。JSCAとしては判定会には協力を惜しまない姿勢と共に構造設計がむやみに過重にならないようにウォッチングしていく必要がある。